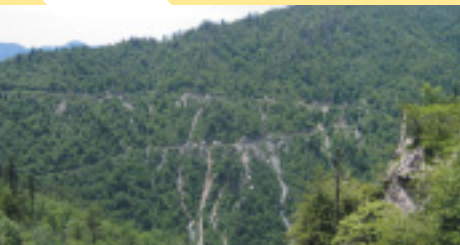


## 秦嶺(しんれい)山脈 森林・生態系回復プロジェクト

© China

森林伐採のつめ跡の残る秦嶺山脈で、  
CO<sub>2</sub>吸収源である森林と、  
豊かな生態系の回復を目指します。



つめ跡の残る秦嶺山脈



旧林道への植林

パンダやキンシコウなど、多様な野生動物が棲む秦嶺山脈ですが、過去の森林伐採の影響で動物の住む森は荒れ、種の絶滅が危ぶまれるようになってきました。中国陝西省西安市にある西北大学や上海動物園とともに、学生や村民などたくさんの方々の協力を得て、野生動物の生活環境を分断し、繁殖を妨げる要因となっている旧林道(総延長194km)に木を植え、森と生態系の回復を図るプロジェクトを、2005年度からスタートさせました。

### ➡ 2005年度の活動

**18kmの林道に6,000本を植林、大小さまざまな動物達が  
この旧林道をまたいで森を移動、環境が改善している兆しを確認できました。**

西北大学李教授と上海動物園の熊園長は、絶滅危惧種であるキンシコウの専門家です。個体数減少の大きな原因が森林の破壊、特に森を分断する林道ではないかとの研究結果を得て、今回のプロジェクトはスタートしました。05年度は林道全体の9.29%に植林。主に、近隣の森から幼木を移植したのでその後の生育も良く、90%の幼木は根が張ったようです。プロジェクトの立上げに際して、エコカード基金の理事長が西北大学で講演し、聴講した学生を中心に、264名がボランティアで植林の手伝いをしてくれました。

このプロジェクトの中国での関心は高く、様々なメディアに取り上げられ、12月に行われたWWF中国と陝西省森林局共催のシンポジウムでも報告されました。

### ➡ 今後の活動

引き続き、林道への植林と生態系改善状況の観察を続けます。06年度は9,000本の植林を目指します。